

本日の学び 「イエスの覚悟と弟子の無理解」 テキスト：マルコ10章32節-45節

【理解の手がかりとして】

本課のテキストは、三度目の受難予告（10:32-34）と、それに続く「ヤコブとヨハネの願い」（10:35-45）である。今回の釈義の中心は、その後半に置く。

イエス様の12弟子の中のヤコブとヨハネが、他の弟子たちに抜け駆けして、「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください」（10:37）とイエス様に頼み込んだ。

ヤコブとヨハネは漁師を生業とするゼベダイという名の父のもと育った実の兄弟である。彼らの存在は、福音書の多くの記事（マルコ 5:37、9:2、14:33）から分かるように、12人の弟子の中でもペトロと並んで側近的存在として扱われていた。それが故に、「栄光をお受けになるとき」（10:37）一神の国（支配）の王となられる終末的な時（マタイ 25:31-）にその王座の右（右大臣）や左（左大臣）のような存在へ取り立ててくれと願ったとしても無理はない。

イエス様はこう切り返された。「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっていない。このわたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか」（10:38）と。「杯（を飲む）」は「殉教」を意味する用語、またここにおける「バプテスマ」も「終末時の困窮（それを潜っての新生）」とも理解できる。

彼らは「できます」（10:39）と勇ましく応える。そしてイエス様は応じられる。「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることになる」（10:39）と。そしてこれは実現する。ヤコブは紀元44年にヘロデ・アグリッパ一世によって殺害された。それはイエス様の復活と昇天の後、彼が教会において熱心に活動し、重きをなしていたことを示している（使徒 12:1-）。一方のヨハネは、使徒言行録の記述によると、ペトロと共に投獄され、共に釈放された経験を持つ（使徒 4:1-）。彼は殉教したと考えられるが、ヨハネの黙示録が彼の著であるとすれば、晩年、彼はパトモス島に流刑にされたということになる。

その彼らの「その後」を考える時に、この十字架前の無理解に関して無下に批判することは避けたいと思う。彼らはその性質「雷の子（ボアネルゲス）」（マルコ 3:17）ゆえに、情熱的で直情的で、自らの心の内を率直に打ち明けないではいられなかったのだろう。

しかしその時、彼らの心を支配していた思いは、「十字架なき栄光のキリスト」である。これは前回の「イエスの変貌」（9:2-13）にて直弟子たち（ペトロ、ヤコブ、ヨハネ）の中にあつた思いである。しかしだからこそイエス様は「今見たことをだれにも話してはいけない」（9:9）と釘を刺されたのであつた。十字架を経ずして復活はないからであり、その十字架と復活を目撃して初めて、弟子たちは「真の弟子」とならされるのであるから。

本課の場面においても、イエス様は十字架の予告をなさる。末節の「人の子は仕えるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」（10:45）と言っておられるとおりである。

さて、これを聞き知った他の 10 人の弟子たちは「この二人の兄弟のことで腹を立て」（10:41）た。ということは、他の弟子たちも、「我こそは」という思いを持っていたに違いなく、それで、ヤコブとヨハネの出し抜き行為に対して腹を立てたのであろう。実に分かりやすい人間らしい感情である。

それでイエス様は弟子たち一同を「呼び寄せ」（10:42）られた。これは、弟子たちの思いとは全く違った事柄をお教えになる為であった。イエス様は言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている」（10:42）と。※ここで言われる「異邦人」は時の権力のローマであり、その権力の前に民衆のいのちはいつも脅かされていた。

続けてイエス様は言われる。「しかし、あなたがたの間では、そうではない」（10:43）と。ここに「異邦人の間」と「あなたがたの間」という二つの「間」がある。イエス様は前者を否定しつつ、後者がそれとは全く異質のものであってほしい、と願っておられる。すなわち「権力による支配」ではなく「仕え合う神の国」へ、である。

イエス様は「仕える」ということの意味をまさに身をもってお示しになった。「十字架」はその最たるものであった。そのイエス様の弟子たること、それは同じように、仕える者としての生き方の中で神の国を表し、それによってキリストの体（教会）をたて上げていくことへと召されているのである。

（聖書教育より） 「イエスさまが弟子たちに受難告知をされたのは、これで三度目でした。ですが、繰り返し困惑したり、的外れなことばかりしている弟子たちがいます。そんな彼らにイエスさまは、忍耐をもって語り続けられました。」（聖書の学び～復活の希望）